

前回はしっかりと回復の米雇用は堅調さ維持か～米雇用統計&FOMC

2019年4月29日(月)

日本はGWでの10連休の最中、為替市場ではイベントが目白押しとなっています。米FOMC、英スーパーサズデー、米中協議再開、米ISM製造業・非製造業景気指数など、相場に影響を与えそうな材料が目白押しとなっています。

そうした中、令和最初のビッグイベントとしては、3日発表の米雇用統計(4月)が要注目です。2月の非農業部門雇用者数(NFP)が速報ベースで前月比+2.0万人と17カ月ぶりの弱い数字になったこと(その後の改定で少し上方修正も+3.3万人と依然低水準)で、米経済をこれまで支えてきた米雇用市場の堅調さに対する警戒が一部で出ました。しかし、前回3月の米雇用統計は前月比+19.6万人と好結果を記録しており、懸念が後退する格好に。

2月は建設、小売、運輸、レジャーといったところが足を引っ張る形となりました。1月下旬から2月上旬にかけて北米を襲った寒波の影響など、天候要因が指摘されており、その指摘に比較的沿った内容という印象でした。3月の雇用統計では、そのうち建設、運輸、レジャーなどがプラス圏に回帰。小売が依然として弱いものとなりましたが、懸念がかなり後退した印象です。

もっとも、小売業は2カ月続けての大きなマイナス。比較的景気動向に敏感な部門だけに少し気になるところとなっています。小売業の中でも弱いものをみると、食品・飲料、薬局、デパート・スーパーなどの総合小売が弱いという結果に。特殊要因というよりも、個人消費の先行き不透明感からの弱い数字という印象です。

また、平均時給が前月比+0.1%、前年比+3.2%と弱めとなっており、全般に力強いとまでは言い切れないという結果でした。

これらの結果を受けて、今回の見通しですが、非農業部門雇用者数の予想は+18.1万人と3月よりは鈍化も堅調な数字が見込まれています。平均時給は前月比+0.3%、前年比+3.3%と改善見込み。

3月の小売売上高の強さを考えると、小売業の雇用が回復している可能性は十分にありそう(もともと雇用の流動性の激しい業界でもあります)。

予想通りもしくはそれ以上の数字が出てくると、ドル買いの動きにつながりそうです。

その他の注目材料としては30日、1日の米連邦公開市場委員会(FOMC)があげられます。

政策金利自体は据え置き見込みでほぼ一致しており、波乱要素は少なそう。

米国の政策金利に関しては、前回FOMCで示されたドットプロットでFOMCメンバーの見通しの大勢が年内の金利据え置きとなっており、当面の据え置きが見込まれています。ただ、トランプ大統領をはじめとする米政府からの利下げ圧力もあり、市場では年後半での利下げの期待が広がっています。

声明でこうした利下げ期待を受けて、何らかの姿勢の変化が見られるのかが注目される所。

また、今回はドットプロットをはじめとするメンバーによる金利、経済成長率、雇用、物価などの見通しを示す回にはあたっていませんが、パウエルFRB議長が今年からそうした回でも記者会見を行うことに制度を変更しており、議長会見にも要注目です。

基本的にこれまでの姿勢を踏襲してくると思われそうですが、金利市場動向などからの年内の利下げ確率は60%を超えてきており、据え置き見通しよりも利下げ見通しが大勢という状況。

前回3月のFOMCの議事要旨でも物価上昇圧力が弱まっていることを指摘しており、もう一段踏み込んだ慎重発言があるのかが注目されます。